

■中島三郎助(永胤)
なかじまさぶろうすけ
伊能図完成・1821＝

幕臣、造船家。日本で最初に西洋近代と接し、近代海軍を先駆。維新で“最後のサムライ”に。

相模国浦賀で、_代々浦賀奉行所与力の次男に生まれる。

生来喘息持ちながら、職業柄、日本の危機をいち早く知ることができた父の意向で、早くから、江戸で武術修業、槍術で、千葉右門より宝藏院流の目録を授かり、剣術では、桑原永助から天然理心流の、千葉周作から北辰一刀流の目録を授かった後、

富籤流行・・1830＝9歳：

富籤三十六景1831＝10歳：田付流田付主計から砲術を習い始めるも飽き足らず、

下曽根金三郎より高島流を、佐々倉寛蔵より集最流を、桜井代五郎より荻野流を学んで、それぞれ免許。

滑稽+人情本 1835＝14歳：_浦賀奉行与力見習になり、

大塩平八郎乱1837＝16歳：この年、従姉妹に当るすずと結婚。_浦賀にモリソン号が襲来、先輩らが追払う西洋式船に見入る。

適塾オープン・1838＝17歳：漂流民を送り届けにきたモリソン号の打払いが国際問題化し、いわゆる蛮社の高野長英らが批判。

蛮社の獄・・1839＝18歳：_幕府から派遣されてきた一行の一人で蛮社の藟山代官江川太郎左衛門と出会い強い印象。

勸進帳初演・1840＝19歳：清国にイギリス軍隊上陸の報が幕府に衝撃。浦賀の寺での詩文の会に誘われ、俳句に親しむようになる。

天保改革始・1841＝20歳：_幕府が開催した高島秋帆の西洋砲術演練を見る。

天保改革弾圧1842＝21歳：外国からの圧力に、幕府は、異国船に対する「無二念打払令」を「薪水給与令」に戻す。

天保改革終・1844＝23歳：オランダ国王からの鎖国政策転換促す国書が幕府に衝撃。浦賀奉行に開明的で決断力ある土岐頼旨が就任し、アメリカ捕鯨船の来航に的確に対処。_命受け下曽根金三郎に入門し、高島流砲術免許皆伝。

阿部正弘首座1845＝24歳：アメリカの捕鯨船マンハッタン号が来航、

孝明天皇・・1846＝25歳：_ビッドル率いる軍艦来航で緊張、父がアメリカとの折衝役となり、薪水積込みでアメリカ艦見学の機会。

・・・・・1848＝27歳：

北斎没・・・1849＝28歳：ようやく長男が誕生。イギリスの測量船マリーナ号が来航するなど、_外国船の往来が頻繁になるなか、父の後を継いで、奉行所与力となる。

尊徳報徳論・1851＝30歳：次男が誕生。

万次郎帰国・1852＝31歳：オランダから幕府にペリー来航の報せで巷にうわさ。

ペリー来航・1853＝32歳：この頃、吉田松陰が来訪。父とともに、海防問題を論じる。***ペリー来航に、通訳の堀達之助とともに出向き、高官でなければ応じないと言われ、通弁する旨申し入れて乗船を許され、日本と条約を結ぶ意向と知るや、奉行所に戻って具申、交渉役になった香山栄佐衛門に随行、案内されて装備等をつぶさに見学。老中阿部正弘が広く意見を求めたのに、警備のあり方を中心に述べた意見書が採用され、奉行所に、軍艦建造の命令が下され、御船製造掛の一員になる。**

開国開港・・1854＝33歳：_ペリーの再来航にも黒船に乗船して、情報を得、{鳳凰丸}が完成。試験航海と大砲発射訓練にも成功、

安政大地震・1855＝34歳：軍艦建造に感服した桂小五郎が、松陰の勧めで、弟子入り希望で来訪。幕命でブチャーチン帰国船建造の戸田村に行き寸法等採取。***幕府の要人に披露すべく、佐々倉桐太郎とともに、仮の艦長となって、品川沖に回航、見分は大成功、幕府が、長崎に開くに至った海軍伝習所に出向。榎本武揚、勝海舟に出会い、1年の期限にも戻らずに、勉学に励み、**

蕃書調所・・1857＝36歳：

五ヶ国条約・1858＝37歳：父が、老齢のため辞職。_イギリスから購入の{鵬翔丸}に乗組み、実習航海後、浦賀に回航、築地に開設された軍艦操練所教授方となる。

安政の大獄・1859＝38歳：_浦賀で{咸臨丸}修理に当るも、勝海舟にアメリカへの航海メンバーから外されるが、

桜田門外変・1860＝39歳：_帰国した勝海舟が操練所から放逐されたことで、頭取手伝出役に昇進するも、持病の喘息が悪化、

遣欧使節・・1861＝40歳：_辞任して浦賀に戻り、療養しながら、奉行所に勤務。

生麦事件・・1862＝41歳：軍艦組に復帰した勝海舟が、神戸海軍操練所の新設許可を得て、

8月18日政変 1863＝42歳：軍艦奉行に異例の出世をする間、台場工事を監督、横浜港の一時閉鎖の建言などしていたが、

禁門の変・・1864＝43歳：父が死去。_富士見御宝蔵番格軍艦頭取出役への出仕を命じられたが、健康面と勝奉行に耐えられず、

薩長同盟・・1866＝45歳：***ついに依願免職。浦賀奉行所も引退、家督を長男に譲り、次男も与力職を賜り、隠居と思う間もなく、大政奉還・1867＝46歳：三男誕生。遣米使節時の問題で謹慎処分になった福沢諭吉を訪ね、いきさつを詳しく聞いた上で、老中稲葉正邦を訪ねて、福沢を有能な人材として推挙、謹慎を解かれ、再び出仕が叶い、のちに「福翁自伝」で、筋を通した人物と高く評価している。_榎本武揚がオランダから軍艦{開陽丸}を回航してくると、軍艦組出役を命じられるも、大政奉還、**

明治維新・・1868＝47歳：妻と乳飲み子を、徳川家の静岡移住に伴って、移住させ、_鳥羽伏見戦争が始まると、長男・次男を連れ、新政府軍に抵抗する榎本に従って、蝦夷地に赴き、箱館奉行並に就任。

戊辰戦争終・1869＝48歳：***戦闘開始に、砲兵頭並に任命され、五稜郭手前の千代ヶ岱陣屋の隊長になるが、新政府軍総攻撃で箱館が占領されても、降伏勧誘を拒み、長男・次男とともに激戦のうち、戦死した。**